

朝令暮改何じやらホイ



ワッシーは困っている。だいがん前から、降圧剤の服用を勧めても、すぐに「ウン」と言ってくれる患者さんが少なくなった。これは、マスコミだけのせいではない。「ある学会のエライ先生たちにも、責任がある」と、ワッシーは吠える。なーに、年を取れば、怖いものなしだ。

2年前の4月。日本人間ドック学会と健康保険組合連合会が突然、高血圧は147/94 mmHgを基準値に考えると発表した。2011年の

高血圧の基準値

検診で集めた150万人分のデータを解析し、その中の1万人以上の超健康人を対象にした。その上限と下限から決めたという。高血圧の基準値はそれまで、140/90 mmHgとされてきたから衝撃的だった。現場は混乱した。多くの患者さんから「センセ。私、血圧の薬のまなくても良くなったのでは?」と尋ねられたものだ。

もちろん、日本高血圧学会は黙っていない。基準値を「140/90 mmHg」と発表していたのに、違う数字を発表されたからだ。で、たぶん一悶着のあと、基準値は、なぜかまた、「140/90 mmHg」で変更なし」と決まった。日本人間ドック学会側は、さらに数年間、データを追跡調査することになった。何じやらホイ。朝令暮改である。もともと統計の母集団が違う。日本人間ドック学会側は、健康な人のデータ。日本高血圧学会は患者さんの

患者さんが疑心暗鬼に

データだ。結果が違って当たり前かもしれない。で、この騒動は結局、「ホントは、まだ血圧を下げなくてもよいのでは」とか、「不要な薬をのまされているのでは」と、患者さんを疑心暗鬼にさせて終わった。

ワッシーは、高血圧の患者さんには積極的に治療を勧める。なぜなら、血圧が高くなるほど脳卒中や心筋梗塞などが起きやすくなるからだ。脳の血流が保たれ、立ちくらみなどの症状さえなければ、血圧は低い方がよいと言いつづけている。

(石黒修三 しいしぐるクリニック・脳神経外科専門医、金沢市在住)